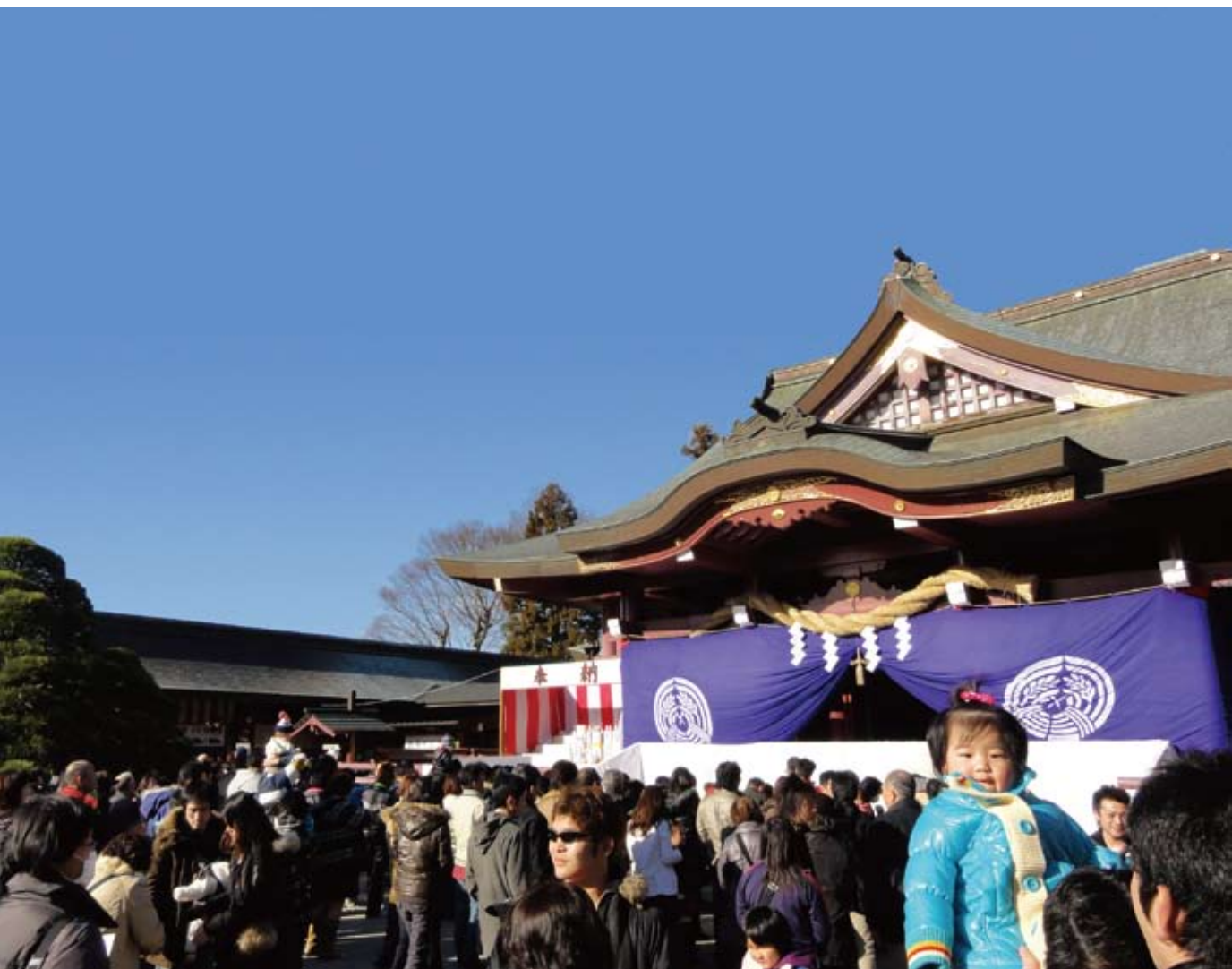


THINK & TALK

神と三弦と伝統の新生

講中を訪ねて

笠間稲荷神社復興奉賛のお願い



年頭にあたりまして、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者の皆様の平安をお祈り申し上げます。

三月十一日の未曾有の大震災から間もなく一年になろうとしています。各地の復興へ向けて、皆様のご努力に深い敬意を表しますと共に、笠間稲荷神社復興に向けて皆様の尊い御浄財をお寄せ頂いておりますこと、改めて感謝申し上げます。

当社の復興は皆様にご参拝頂く為に必要な施設の修復、安全面の確保を中心に第一期工事として行いました。今後は、本殿・鳥居・玉垣等の修復工事を第二期工事として行う予定であります。震災前の姿に戻るにはまだ多くの時間を要しますが、皆様には今後も変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。

復興へ向けて一日一日を過ごしておりますと、神社と皆様の絆を強く感じてなりません。震災が起こる前は、地域と住民の絆、人と人の絆は失われつつあると言われておりましたが、日本人の根底には絆は失われていないということが、皮肉にも震災を機に明らかになりました。人と地域の絆、人と人の絆は、神社界が大切にしてきたことの一つです。神社を護っていくという事が、日本人としてあり方の「絆」、日本人のアイデンティティを護る一つの方法だと信じ、神社の護持に努めるという使命を強く感じる次第であります。

本年は、辰年、魚が滝を登りきると龍となると言われる様に、復興へ向けて様々な困難があると存じますが、それら困難を乗り越え、見事、龍となれるよう、皆様にとってすばらしい年でありますよう、改めましてご祈念申し上げます。ありますが、新年のご挨拶申し上げます。

笠間稲荷神社 宮司 塙東男

笠間稲荷神社復興奉賛会



平成二十三年三月十一日の東日本大震災発生後、全国のご崇敬者よりの暖かいご奉賛を賜り、鳥居の撤去、社務所一階部分の修復を始め、回廊、灯籠、美術館等の屋根瓦の修復など、皆様に安全にご参拝頂く為に必要な修復工事を第一期工事として終了致しました。

第二期工事といたしまして、御本殿の修復を始め鳥居、玉垣、石碑などの修復工事を行う準備をしているところでございます。

この事業が一日も早く完遂できますよう、皆様方の心からなるご奉賛を仰ぎたく、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げる次第でございます。



◎ご奉賛について

- 一、皆様からの奉賛金は財務大臣が指定した「指定寄附金」として、所得税や法人税の優遇措置が受けられます。
- 二、ご奉賛は、ご参拝のおりか郵便振替、指定取扱い銀行振り込みのいずれでも結構です。
- 三、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納致し永く顕彰致します。
- 四、ご不明な点等がございましたら、奉賛会事務局までご連絡下さい。

○振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇一三〇・二・五九六二二四

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普) 一五〇六四四八

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定寄附金 代表役員 埜 東男

お問い合わせ先

電話 〇二九六・七三・〇〇〇一

笠間稲荷神社復興奉賛会

第26回

神と三弦と伝統の新生

邦楽家・本條流家元／本條秀太郎 氏
笠間稲荷神社 宮司／塙 東 男

民族の音に息吹を吹き込む 灯を伝える

神様に
聴いていただく

塙 いつもお詣りいただきましてご苦労さまです。

本條 笠間稲荷神社へのご参拝は祖父の頃からで、笠間稲荷大神様の祠を庭にお祀りしていて、子どもの頃からよく笠間さんの話を聞かされていました。昔は駅から電車が通っていたそうですね。

塙 人車といって、人が車両を押す軌道があり、笠間駅と神社を結んでいました。

本條 大きな旅館があり、芸者衆もいて大変にぎやかで、必ず何日間か泊まって、お詣りしたそうです。

塙 笠間稲荷大神様は芸能・芸術の神様としても信仰を集めておりますが、どのようなお気持ちでお参りされていきますか。

本條 子どもの頃は、正月に必ず母親に連れていかれましたから、ご参詣しないと気持ちが落ち着きません。ただ、何かをお願いすることはなくて、境内の土を踏ませていただく気持ちでうかがっています。

神様への気持ちとして、演奏会の時には、必ず舞台上手側に竹を立てて、花を飾っています。森繁久彌さんにお客さんに受けようという気持ちではなく、「目に見え

笠間稲荷神社 宮司
塙 東 男

なくてもいいから、誰か一人にだけ聴かせようと思って演奏する」といい」と教えていただいて、それをきっかけに神様に聴いていただこうと始めたものです。以来、ずっと続けています。お客に媚びたり受けようと思ったりせず、自分が表現したい演奏ができるようにとの思いです。天道花（てんどうはな）というそうですが、聞く、同じように、田の隅に



立てて自然に感謝するとい
う風習があるそうです。

塙 利根川の流域で、田の
隅に白い半紙を挟んだ竹を
立て、田植え開始前に神様
にお供えをするとか、浜か
ら清浄な砂をもつてきて敷
き詰めて、そこにお供え物を
置くなどの習慣があります。
食の神様である稲荷大神様
に感謝して農作業を行なう
風習です。

民族の音に 息吹を吹き込む

塙 先生はお若い時に俚奏
樂を創始されました。

本條 三味線音楽は、ほと
んどが歌舞伎関係の音楽で
すが、俚奏樂はプリミティブ
な、民族的なものを題材にし
ています。歌舞伎音楽が都
会的な音楽とすれば、俚奏
樂は鄙（ひな）の音楽で、庶民に密
着した音楽の形態です。土
地柄によってそれぞれ多様
なりズムとかメロディがあり
ます。それらを三味線音楽

に取り入れて表現するのが
俚奏樂で、「俚」は「人」と「田」
と「土」から成り立つので、
日本人、つまり農耕民族の
人たちが奏でる音楽というつ
もりで、若い時に名づけまし
た。現代に生まれた邦楽とい
うことで、伝統的な三味線の
なかにそれをつくりたいと思
いました。

三味線音楽、 民謡はグローバル

塙 ジャンルを超えてさま
ざまにご活躍しておられて、
海外においてもご活動なさつ
ておられますね。

本條 若い時代、体力もあ
り時間もたくさんとれまし
たので、できるだけ海外に行
こうと思い、三分の一は海外
にいました。その頃、いろい
ろな国の民族楽器の人たち
と一緒に演奏して、邦楽とい
うワクにとらわれないという
気持ちが生まれたと思いま
す。三味線は民族楽器です
から、その国独自の楽器・民

族音楽とは意外と合いやす
いのです。そんなことから、
日本の三味線音楽、特に民
謡は、もつとグローバルなも
のなんだ、どこの国でも唄と
かメロディとか心持ちがある
から、逆にグローバルになる
のではないかと思いました。

塙 フランスでも古典楽器
で、ピアノの原点になったよ
うなものとか、笛ですとか、
音の出し方がよく似ていま
す。

本條 民族楽器は自然を写
していて、国という分け隔
てがありません。一方でクラ
シックの楽器は、音を重ね
る音楽をつくるために発達
したもののなので、

平均律になってい
て、どの洋楽器と
でも組み合わせが
できますが、音が
濁らない、濁って
はいけないので、
その楽器一つでも
世界を作ることが
できる民族楽器と
は合わせにくいの

本條 秀太郎 氏 Hidetaro Honjo

本條流家元。三味線演奏家・作曲家。茨城県出身。三味線を篠塚みつ師に、
長唄を稀音家芳枝師に、民謡を二代目大船繁三郎師、藤本琇丈師の両師に、小
唄は田毎て三師に師事。以後修学に勤め、1971年に本條流を創流。流儀曲と
して三弦のもつ表現の自由闊達さに回帰し、時代時代に唄われてきた“小さな
うた達”の断片をも復元再生し、自然発生的に歌い継がれてきた“うた”（自然
民謡）の、普遍的、民族的な躍動感や旋律をモチーフに、現代に伝統音楽とし
て生まれた楽派「俚奏樂」を創設。

日本音楽著作権協会正会員、日本民族音楽会会員、現代邦楽作曲家連盟会員、
現代三味線音楽協会運営委員、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、いばらき
大使、水郷いたこ大使、日本民族歌謡継承発展協会代表、日本民謡協会名誉教授。
2007年紫綬褒章受章。





です。ある意味民族楽器の音は濁っているといえますが、そこがとても人間的で魅力的です。

音格という個性

塙 先生は音格おんかくという表現をなされておられますが、その意味についてご説明ください。

本條 三味線にはさわりという、音が共鳴する装置があり、その音があるために平均律の西洋の楽器と合奏しにくい楽器です。三味線は、

一つずつが純粋な音程をもった音ではなくて、人格のように、一つ一つに音格があるからです。三味線には勘所かんところという、音を出すと響くところがあります。逆に全然響かないところもあります。響くところと響かないところがあるから、西洋の音楽みたいに音を重ねると違和感があります。だから、三味線の曲を西洋の楽器を学んだ作曲家がつくると、そのあたりにズレがあつて、とても弾きにくいところがあります。それは音格という個性があるからで、個性のあるものが重なるわけだからぶつかってしまうのです。逆にいうと、三味線は、西洋の音楽のように和音でなくても、単音で弾いても一つの世界をつくれる力のある楽器で、そこが大好きなところですよ。

三味線が子守唄

塙 三味線と出会われたきっかけは何ですか。

本條 私は潮来生まれで、子どもの頃は花柳界がまだまだ盛んでした。どこへ行っても三味線の音色が聞こえてきて、わりと身近でした。たまたま三味線を教えてくれる元芸者衆がいて、稽古に行きました。私はやんちゃでしたので、どうせ長く続かないからと思われたのですが、結局は一日も休まずに通いました。

塙 ここ、東京別社は浜町で、花柳界のご真ん中です。隣り近所に芸者さんがたくさんいて、お座敷に出る前に必ず参拝にいらつしやいました。三味線の練習の音もよく聞こえました。

本條 芸者衆そのものが文化ですので、もっと次代につ

ながつてきてくれるといいんですが。

日本の文化は「伝燈」

塙 先生は各地の民謡を发掘されて、新しい息吹を与え、現代に蘇らせていらつしやいます。伝統の保存と継承についてどのようにお考えですか。

本條 伝統とは継なげていくことだと思えます。私は「伝燈」、燈を伝えるという言い方をしています。三味線でも何の芸でも、伝えるものにいつも新しい油を注いであげないといけないと考えています。新しい音楽をプラスして継ぎながら、いろいろな

思うものは自然に取り除かれて、そのなかで残っているものが伝燈になる。昔のものをそのまま次の時代に引き継ぐのでは、形骸化してしまっ



て、生ものではなくて腐ってしまします。絶えず新しいものを入れていくということですね。今の時代は大きな劇場であったり、マイクを使って日本の楽器を演奏したりします。その時に、どうすれば本来の三味線の生音が聴こえるかを考えながら演奏しないと、伝燈につながらないのではないのでしょうか。

近頃、全国各地の小中学生たちに、三味線の音を刷り込んでおこうと、機会をつくってもらって小学校をまわっています。興味はもってくれているみたいで、あとで必ず手紙を書いてくれます。伝燈とは、ただ昔のものをそのまま今に受け継ぐのではなくて、常に何か新しいものを注入しながら伝えていくことだと思っています。

塙 寺社でも、千年以上も燈を伝えているところがありません。

本條 西洋のような石できている文化に対し、日本は木できて朽ち果てる文化

ですね。木製のためどこかが古くなって腐ってしまう。そうしたら、そこに同種の新しい木を入れて、また同じ形をつくりまします。技術をつなげるのが伝燈と日本人は考えているのかなと思います。絶えず新しいものを入れていく点で、西洋の石の文化とは違うのかもしれない。

塙 二十一年に一回伊勢神宮を建て替えたりしていますね。

本條 技術をつないでいくことが文化の伝燈なんですね。

塙 技術もまた少しずつ変わっていつています。特にここ数十年、昔からの文化を伝えたくても、その技術が残っていません。

本條 繭もそうです。三味線の弦は絹糸で、それも着物用の繭ではダメなんだそうです。ところが、日本でもあまりつくる場所がなくなりました。

塙 当社は十一月二十三日にお米と繭を奉納していただき、献穀献繭祭を斎行しています。以前は四千軒から

繭が集まりましたが、今年には繭をつくる方が七十九軒しかいらつしやいません。お米も専業農家が少なく、なんとかそういう方々を守っていきやすい環境をつくりたいと考えています。

本條 日本人は農耕民族ですから。

塙 それがないと日本の誇りもわかりません。

本條 子どもたちに三味線の音を刷り込むのと同じように、子どもを連れて神社にお詣りすればかなり伝燈につながっていきます。現在はあまりそういうことをしませんよね。神様は自然ではない、自然を恐れないことにながつてしまふんだらうなと感じまします。自然に感謝して、共に生きるということが、神様に手を合わせることもんだらうと感じまします。

塙 先生の音楽は自然との調和とか自然を大切にしていらいつしやるといってお氣持しが伝わってきて、素晴らしい

と思います。

本條 そういう風にしたいといつも心がけています。

塙 笠間稲荷神社は東日本大震災の影響で、国の重要文化財である御本殿をはじめ、各所に大きな被害を受けました。神社ではこれら被害からの復興を一日も早く果たし、皆様の信仰の拠り所、心休まる御神域を回復し、伝燈の灯りを後世に長く伝えていきたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。





繭玉飾り

1月中旬



新始祭

1月5日 10時



初詣

1月



古札炎上祭

1月15日 10時



節分追儺式

2月3日 15時・19時



絵馬祭

2月26日 14時



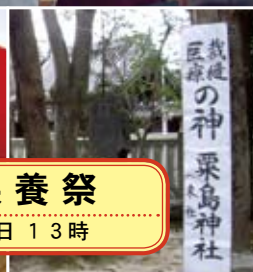
初午大祭

2月3日 7時半



針供養祭

2月8日 13時



2月



紀元祭

2月11日 8時



旧初午大祭

2月27日 7時半



祈年祭・初穂講大祭

2月14日 11時



3月

春季皇霊祭遙拝式

3月23日 8時

昭和祭

4月29日 8時



例大祭

4月9日 11時

4月



御田植祭

5月10日 10時

5月

講社大祭

5月16日 11時



樹齢400年以上の大藤

見頃：5月上旬



車の茅の輪くぐり

6月24日 10時～15時



6月

夏越の大祓式

6月30日 16時半



茅の輪くぐり

6月30日 16時半頃～



節分追儺式 2月3日（金）

かみしも

さんとうぎょうじつかさ

袴に木綿たすき姿に正装した撒豆行事司等の手により、撒豆台から宮司家伝統の秘法により調整された金銀福豆（御守護）と共に福銭等がまかれます。

5万円にて社殿での神事と、撒豆台で福豆を撒く撒豆行事司のご参加ができます。

車の茅の輪くぐり 6月24日（日）

自家用車をはじめ大型車両に至るまで種類を問わず、茅の輪を左・右・左と8の字を描くように3回交通安全祈念をしながらくぐっていただきます。

夏越の大祓の一環として交通安全と事故防止を願い、毎年6月第4日曜日に行われます。当日に車両1台につき1千円から受付しています。

夏越の大祓式・茅の輪くぐり 6月30日（土）

毎年6月、12月の晦日に斎行されており、大祓によって過去の知らず知らずに付いた不浄を祓い清め、心身共に新しい生活出発を祈る神事です。

崇敬者の方々は人形・車形に身代わりとして罪穢れを移し、茅の輪をくぐって祓い清めます。

人形・車形は1体1千円にて授与しています。

その他、詳しい祭事予定はホームページをご参照下さい。

笠間稲荷神社

検索



講

中を訪ねて

寄居笠間講



▲寄居町の交通安全を見守る大きな人形。製作には山川副講元が携わっています。

埼玉県大里郡寄居町にお住まいの講元・吉田忠作さん、副講元・山川幸正さんのお二人が中心になり、地域の皆さんとご一緒に毎年秋に参社する寄居笠間講は、今からおおよそ四十年前に発足しました。

講結成以前に個人的に笠間稲荷神社へ参拝をしていた山川副講元が、仕事が多忙になった為、初代講元であるお父様に代参を依頼し、吉田講元と一緒に参拝へ向かったことが寄居笠間講結成のきっかけになっています。

昔から「なくし物をしたら笠間様にお祈りすると見つかる」と言い継がれており、稲荷大神様と向き合うことで心も落ち着き、不思議となくし物もすぐに見つかるということでした。

寄居笠間講では笠間へ向かう道中、バスの中でもお酒は一切飲まず、御祈禱が終わって初めて、直会の御神酒を参加者全員で頂くことを決まりとしており、講員同士の交流を図り、親睦を深める講中参拝をとっても大切にしてもらいます。

寄居笠間講の一層のご発展と講員各位のご多幸をお祈り申し上げ、次回ご参拝をお待ちしております。



講元

吉田 忠作

元船大工

趣味：彫刻、写真

初代講元が初めて笠間へ参拝する時に一緒にお参りして以来、地域の人たちに声をかけ毎年参拝を続けています。家族が健康で幸せな生活を送ることが出来るよう、また来年も揃って笠間へ参拝に行けるよう日々祈り、お礼参りも大事にしています。



副講元

山川 幸正

寄居地区交通安全協会副会長

寄居地方交通安全ドール

P.S.委員会々長

趣味：鮎釣り

菓子卸業をしていた25～6歳の頃、勤め先の社長夫妻が笠間へお参りに行く際、同行したのが笠間様との出会いです。若年層にも何とか参拝へ参加してもらおうと呼びかけています。



▲船大工を生業にしていた吉田講元が作った荷船（埼玉県立 川の博物館蔵）



▲ご自宅の庭に祀られている立派な稲荷社は、船大工の腕を活かして吉田講元ご自身が作られたもの。講元ご婦人・菊江さんも一緒に。



◀寄居笠間講参拝記念写真（平成23年11月6日 撮影）

笠間稲荷神社日誌



平成二十三年

赤字…祭典
緑字…行事
黒字…講中参拝・正式参拝

◆六月

四日 東京丸佐講
五日 東京あづま講
二十一日 笠間神社総代会
二十六日 車の茅の輪くぐり
三十日 夏越しの大祓式

◆七月

三日 松戸鎌ヶ谷木材同業組合
十八日 水神講
二十一日 豊四季講
二十二日 当社責任役員会・総代会
三十日 旧大祓式



◆八月

一日 本社御田植祭
事比羅祭
末社祭

五日
七日

國學院大學指定実習開始
献燈祭



◆九月

三日 東京三笠講
五日 埼玉丸元講
八日 東京八方講
十日 五丁目友の会・藤岡稲荷講
十一日 東毛敬神講
十二日 中秋祭
十三日 関鉄観光(守谷)
十七日 初雁興業(株)笠間稲荷講

十四日 学校法人皇學館理事長
佐古一冽様来社
二十一日 宇都宮笠間講
二十七日 大洗磯前神社國學院大學実習生
二十八日 真岡加波山登山講

◆十月

二十三日 秋季皇霊祭
小笠原流三三九手挟式
二十四日 茨城県神社総代会・
茨城県神社庁結城支部
二十八日 RⅠ第二八二〇地区RAC

四日 図画コンクール審査
十三日 ミネヒロン農事研究会関城支会
十五日 菊まつり開催奉告祭
菊まつり開場式



十六日 江戸消防記念会木遣り奉納
藤本稲荷講
十七日 神嘗奉祝祭
尚齒祭
十八日 明治神宮敬神婦人会

二十日 茨城県敬神婦人連合会
二十三日 東京中央講
二十五日 講社大祭

菊花早咲き品評会
西東京寿恵広講
二十九日 NHK大河ドラマ全国巡回展開催
番匠免講

三十日 図画コンクール表彰式
東京紋三郎講・船橋大日講

◆十一月

一日 笠間・友部街商組合
二日 菊花中咲き品評会

越谷穀信講・増森新田講
明治祭
神事流鏑馬

三日前笠間稲荷神社講・大平講・
東武観光岩槻・南百笠間講・
三峯山奥之宮神璽講社・
松伏地区笠間講・五辻笠間講・東京
東両国八町睦笠間勇山講・光和観光
サーブス東部案内所

四日 正徳講

五日 かさま菊あかり回廊
かさま落語会

六日 秋田市長穂積志様来社
寄居笠間講

八日 菊花遅咲き品評会
九日 塩原温泉笠間講

十一日 匠瑳立身太々講・築比地笠間講

十二日

示現流奉納
埼玉県トラック協会草加支部
立野神社総代会・護持会
大和古流奉納

十三日 明治神宮崇敬会世田谷支部婦人部
十四日 霜月祭
十五日 かさま狐の嫁入り

十七日 小松稲荷講

十八日 桜林美佐様来社

十九日 坂東市岩井職工組合
二十日 舞楽祭

假屋崎省吾の世界

川口平和講・國學院大學院友会
二十一日 埼玉県酒造組合中部ブロック

二十二日 当社責任役員会・総代会
二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭



菊まつり千秋楽

浦向笠間稲荷講

二十五日 野田市睦講
二十七日 長須職工組合・米山記念奨学会

◆十二月

一日 山崎石材工業
四日 西向天神社奉賛会
五日 五代目板東玉三郎舞踊奉納



七日 明治神宮権宮司網谷道弘様来社
十日 茨城県菊花連盟菊花品評会表彰式
十三日 有志会

十五日 煤払い
二十二日 御火焚串炎上祭

二十三日 天長祭
二十八日 鹿島祓い

三十一日 大祓

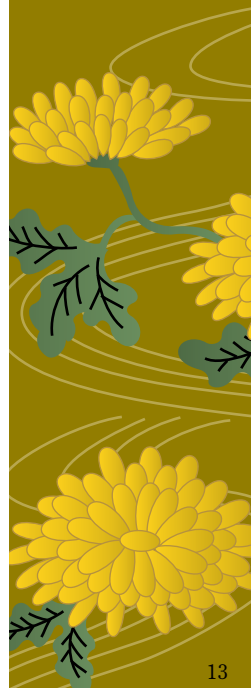
笠間稲荷神社 大菊花展・菊人形展に 協賛して頂ける方を募集しております

笠間稲荷神社の菊まつりは明治四十一年に始まり、昨年で一〇四回の開催となりました。この開催回数は全国各地で行われている菊まつりの中では最多の開催回数を誇ります。当社の菊まつりは茨城の秋を代表するイベントとして毎年約六十万人の方が訪れます。菊の花を愛でる文化は日本人に深く根付いておりませんが、その一方で近年、後継者不足や価値観の多様化等の問題を抱え、菊まつりの開催を取りやめる自治体や団体も増え、その文化は失われつつもあります。

当社においても同様の問題を抱えている状態ですが、菊の文化を後世に伝える為、様々な施策を講じている最中でございます。但し、今後そのような活動をしていく上で、当社のみでは限界もあり、多くの方々のご協力が必要です。どうか、この趣旨にご賛同頂き、ご協力賜ります様お願い申し上げます。協賛方法は現在、協賛のぼり旗もしくは協賛看板の形にてお願いしております。ご協賛頂けます方は、笠間稲荷神社事業室までご連絡下さい。

笠間稲荷神社 事業室

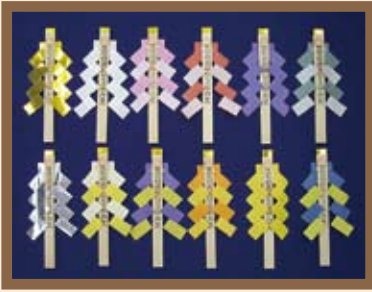
茨城県笠間市笠間1
笠間稲荷神社社務所内
電話番号 0296-73-0001
F A X 0296-73-0002



月詣り

御祭神宇迦之御魂神は「いのち」の根の神として、衣食住・殖産御守護と、人々の生活すべてに御神徳のある大神様であり、御恩頼にあずかる崇敬者の方々の心の支えとなっております。その中には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらつしやいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感じ、新たな護神徳を頂くことです。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を



授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。

祈禱案内 家内安全

日頃当たり前のよう顔に顔を合わせている家族ですが、今自分が生活できているのも、家族の支えによるものであり、何よりも大切な存在です。また、家族は人間関係の基本でもあり、明るい家庭であるほど、社会に出ても良い人間関係が築けるのではないのでしょうか。家族への日頃の感謝の気持ちと共に、これからも家族皆健康で仲良く過ごせますようご祈念下さい。

当社ホームページからもご祈禱のご予約が頂けます。

ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。

ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。





常陸七福神めぐり

～お問い合わせは各社寺へ～



②西光院

石岡市吉生二七三四

毘沙門天



TEL〇二九九(四三三)六九三八

大同二年(八〇七)法相宗の徳一法師が山麓を御巡錫の折、山腹に不思議に光り輝く仏石を見つけ、百穀成就万民和楽と輸送の安全と牛馬の安息を祈って以来、馬頭観音として信仰を集める西光院。霊石を中心に立つ本堂は県の文化財に指定されており、懸け造りの堂は「関東の清水寺」として広く知られています。
西光院に祀られている七福神は、四方を守護する四天王の一尊、また八方天・十二天の一尊と伝わる毘沙門天。毘沙門天は、主に怒りの相を表し、甲冑姿で片手に宝塔、片手に宝棒を持つ武神の姿をしており、方位の守護神、福德を授ける善神として信仰を集めています。



七福神で八つの幸せ

常陸七福神は、霞ヶ浦を中心に、全国でも珍しく八つの神社とお寺に安置されており、日本で最も巡拝路が長い七福神めぐりとして知られています。

笠間稲荷神社には、福德・財宝を与える神として信仰を集める大黒天が祀られており、御縁日である甲子の日には多くの崇敬者で賑わいます。



▲当社大黒天は藤棚の奥に祀られています

今号では、常陸七福神のうち、西光院の毘沙門天と西蓮寺の寿老人をご紹介します。

七福神をお祀りしている各社寺で朱印や御守りを授与しております。常陸七福神を巡拝し、八つの幸福をお受け下さい。

③西蓮寺

行方市西蓮寺五〇四

寿老人



TEL〇二九九(五六)〇二〇七



延暦元年(七八二)桓武天皇の勅願により伝教大師の弟子・最仙の開山といわれる天台宗の古刹・西蓮寺。境内中央にそびえる相輪櫓は、蒙古襲来の折、戦勝記念として弘安十年(一二八七)中興慶弁阿闍梨が建立したもので、山門の仁王門と共に国の重要文化財に指定されています。

西蓮寺に祀られている七福神は、寿星の化身、または老子の化身ともいわれる中国の神様・寿老人。福德圓滿、長寿の神として信仰されています。主に、白髪が多く垂れ、身の丈三尺長頭の老人姿で、玄鹿を伴っている姿をしています。



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.28 平成24年1月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページhttp://www.kasama.or.jp/
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。